



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院

<http://tsushima.jp>

発行部数 500部

発行月 1, 4, 7, 10月

発行人 都志見病院

広報委員会



乳腺外来開設のご案内

日本では約9万人を超える人が乳がんにかかるといわれ、罹患率は女性のがんの第1位になっています。当院では9月から乳がん検診で要精密検査となった方や、症状のある方を対象に乳腺外来を開設いたしました。

乳房について症状がある、要精密検査となった方など不安やお困りの方は一度ご相談ください。

診察日時

毎週水曜日（第5週は休診）

15時～17時 完全予約制

ご予約やお問い合わせは、
平日の9時から15時、
外科外来あてに
お願いします。

担当医

第1・3 水曜日 山本達人 医師

第2・4 水曜日 北村義則 医師

対象者

検診結果で精密検査が必要な方

乳房について症状（しこり・痛み等）がある方

経過観察など定期検査の必要な方



形成外科ってどんな科？



形成外科
中浜 都 医師

都志見病院では、毎週水曜日に形成外科外来があります。形成外科があるよって言われても、何を見てもう科かわからぬとよく言われます。形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損に対して治療を行い、みなさまの生活の質 “Quality of Life” の向上に貢献する、外科系の専門領域です。また、傷を治す専門家でもあります。

たとえば、ほくろや、皮膚のできもの、まぶたが下がって来て、視野が狭くなる眼瞼下垂症、見た目が気になる傷や治らない傷、傷跡の膨らみ（肥厚性瘢痕・ケロイド）、巻き爪などの治療ができます。

都志見病院では、局所麻酔での手術も行っており、ほくろなどのできものを日帰りで手術することも可能です。

これ、気になっていたけれど、何科に行けばいいかわからないという困りごとをお持ちでしたら、お気軽にご相談ください。





院内全体研修

医療安全管理部



2023年度第1回目全体研修を8月7日・9日・10日の3日間、7回に亘り開催しました。毎年2回開催する研修では医療安全に関する基本的な知識やトピックスを全職員に受講してもらっています。今回のテーマは「インシデントレポートの目的と再発防止」でした。

医療現場にはたくさんのリスクが潜んでいます。実際に起きたインシデントアクシデント、ヒヤリハットしたこと、これは危険かも…と感じたことや気づいたことなど各部署から様々な報告があります。

レポートで報告された事案は部署やリスクマネジメント会議で情報を共有し、取り返しの付かない医療事故から患者・家族・医療従事者を守るための対策に繋げていきます。また、医療従事者だけでは安全は守れません。チーム医療の一員である患者・家族の方の参加、協力をいただきながらより安全で信頼できる医療のために努力し続ける必要があります。

事例検討



がん看護研修会



7月「麻薬について」

薬剤師 齋藤 亨



がんの痛みを緩和する為に、医師が患者様の症状に合わせ麻薬を調整し処方することで、その痛みが緩和され生活しやすくなる場合が多いです。

今回は、麻薬の種類別の効能や内服方法・注意点等を学びました。管理上、特殊である点も、各スタッフ間で周知できたらと思います。



8月「在宅緩和ケアについて」

緩和ケア・内科医師 松元満智子



「どこで最期を迎えたいか」の聞き取り調査結果、在宅ケアで使用できる介護保険について、また症例紹介をとおして緩和ケアの関わりを学ばせていただきました。

患者様・主介護者と会話を重ねながら、患者様・ご家族の意向を大切に在宅診療をされた内容を知り、各スタッフが自らの緩和ケアを振り返る事ができました。





新入医局員紹介



**脳神経外科
伊妻 浩**

10月に入局された先生にインタビューしました。

- ①趣味は?
- ②尊敬する先生とその理由
- ③医師になろうと思ったきっかけは?



①旅行、食べ歩き

②先人たる全ての医師

現在の医学の知識や技術に関して、礎を築いていただいたおかげで、有効な治療を行うことができていると思います。

未来の医療につなげる意味でも、少しでも貢献できたらと思います。

③中学時代に友人を心疾患で失い、何もできなかつた自分が歯がゆかったです。

④物理学者もしくは政治家でしょうか。

退任医師のお知らせ

殖木洋平医師(脳神経外科)が9月30日付で退職いたしました。



出前講座in阿武町町民センター



令和5年8月26日(土)13:00~15:00 阿武町町民センターにて
学んでみよう! "がん"と"地域医療"の出前講座を開催しました。

院長 山本達人 テーマ「がんについて知ってみよう」

内科医師 松元満智子 テーマ「在宅緩和ケアについて」

患者サロンだいだい代表 岡野芳子 テーマ「がん・仲間・医療」

退院後に不安がある方はサロンの集まりに参加されてみてはいかがですか?

音楽療法士 小池みなみ ピアノ演奏

「緩和ケア 健康のための音楽療法の紹介」



阿武町町民他、ご来場いただきありがとうございました。



食品ロスについて

皆様は「食品ロス」という言葉を聞いたことがあるでしょうか?

日本では年間約570万トンの食品がまだ食べられる状態であるにも関わらず捨てられています。

そんな「もったいない」を「ありがとう」に変える取り組みとして、全国各地ではフードバンク活動が行われています。フードバンク活動とは食品関連業者や一般家庭、職場等で包装の印字ミス、賞味期限が近いなど品質に問題はないが通常の販売が困難な食品や食材を引き取り、生活困窮者や支援団体、福祉施設に届ける活動のことを言います。



写真左：今村主税先生/写真右：嶋崎事務長



萩市内でも
アトラス萩、
ゆめマート東萩
など少しずつ設
置場所が増えて
います。



この度都志見病院では災害備蓄品の入れ替えに伴い、レトルト白飯、おこわ合計150食分を、フードバンク山口代表であり山口県立大学環境科学研究室 准教授 今村主税先生に寄付させていただきました。今後は子ども食堂などで提供される予定です。
萩市内でもスーパーなどでフードバンクポストを見たことがある方もいらっしゃるかもしれません。目にとまった際には気にしてみて下さいね。

ナースの ひとこま 看護職の「1日ナース体験」「職場体験」行いました！

今年はたいへんな猛暑の中、中学校4校と高校1校から6名「1日ナース体験」（山口県看護協会委託事業）と、中学校3校から6名のインターンシップ「職場体験」を合わせて12名の体験をお引き受けしました。



車イス体験

昨年はコロナ禍で中止しておりましたが、今回は参加者の皆さんのがんこな健康チェックや周囲の感染状況を確認の上で実施をいたしました。看護の仕事に興味を持つ学生さんの初々しい様子や質問に看護職員も刺激をいただきました。看護師の仕事だけでなく薬剤部、リハビリ室、検査室、放射線科、栄養部での見学や体験も取り入れました。看護職をはじめとする医療職への理解を深め、萩の地で未来の医療従事者を…看護師を…目指していただききっかけになればと思います。見学に協力いただいた部署の皆さんありがとうございました。そしてご参加された「金の卵さん」いつか一緒に働きましょうね！待っています！



救急外来

配膳
「お食事ですよ」

ベッドメイキング



血圧を測ってみよう！

東洋羽毛さんより車イスの寄贈



今年8月で70周年を迎えた東洋羽毛さん。
「お世話をされている病院に

感謝をこめて…」と、

車イス1台を寄贈していただきました。
公式キャラクターのピヨ丸が背面にデザインされています。
座面と背部のクッションは取り外して洗うことができ衛生的です。
大切に使わせていただきます。



東洋羽毛さん
ありがとうございました！



がんサロン「だいだい」さんより 氷枕カバー寄贈

恒例になりました、がんサロン「だいだい」の皆さまによる氷枕カバーの作成を今年もしていただくことができました。発熱や患部の炎症に…療養生活には無くてはならない氷枕です。使用頻度も高いため、洗濯を繰り返すと傷んでしまいます。「いつも清潔できれいな氷枕カバーを」というサロンの皆さまの願いが込められています。

今年は30枚もの氷枕カバーを作成していただきました。

本当にありがとうございます！





No.22

最後までおいしいごはんを食べるためには。

リハビリテーション部 言語聴覚士 松本祐樹 秋山正宜
技士長 佛圓 祐基

今年も秋に入り、夏の猛暑を乗り越えて過ごしやすい時期になってきていると思います。そんな秋と言えば「食欲の秋」とも言いますが、普段私たちは寝ている間も合わせて、一日500～1000回唾液やごはんを“食べる(飲み込む)”ことを行っています。人の“食べる”という動作は、細かく言うと食べ物が固体物か液体かによって、飲み込み方が異なっているとも言われており、この食べる一連の動作を「(嚥下の)5期モデル※図1」と言います。

この嚥下が、加齢や脳血管疾患によって機能不全を起こし、気管から肺へ誤って流れ落ちてしまうと誤嚥性肺炎を発症しやすくなり、70代以上の入院肺炎発症率の

70%を占めるとも言われています。

おいしいごはんを最後まで食べ続けるためにも、どの筋肉を鍛える事が効果的と言われあごを引きながら両手で押しあげていく「あご上げ運動※図2」や、頭を下げつつ手で押し返す「おでこ体操※図3」を、1日10秒×10回を目安にやってみてください。

注意：顎に痛みが伴う方は「おでこ体操」をおすすめします。

何かお困りのことがありましたら、リハビリスタッフにお声掛けください。

図1.画像引用：嚥下食ドットコム
(<https://www.engesyoku.com/index.html>)

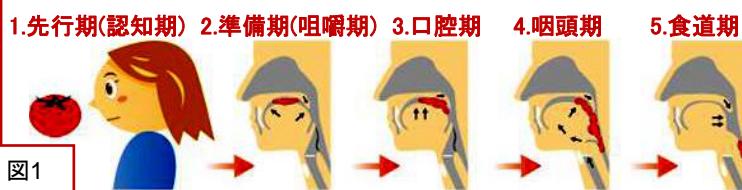


図1



図2



図3